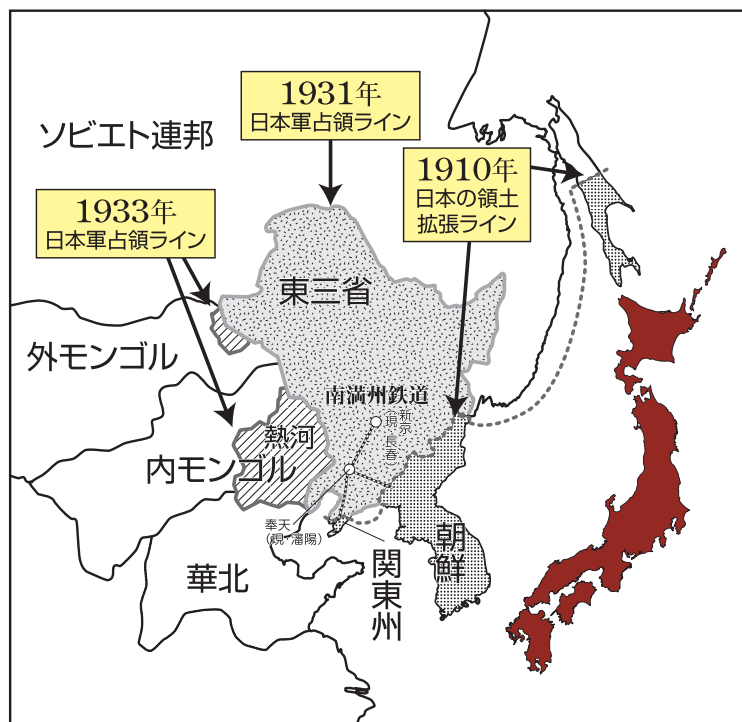


日本の戦争は、領土拡張や外国の支配をめざした侵略戦争でした。そのことは、日本の政府と軍部の公文書にもはっきり記録されています。

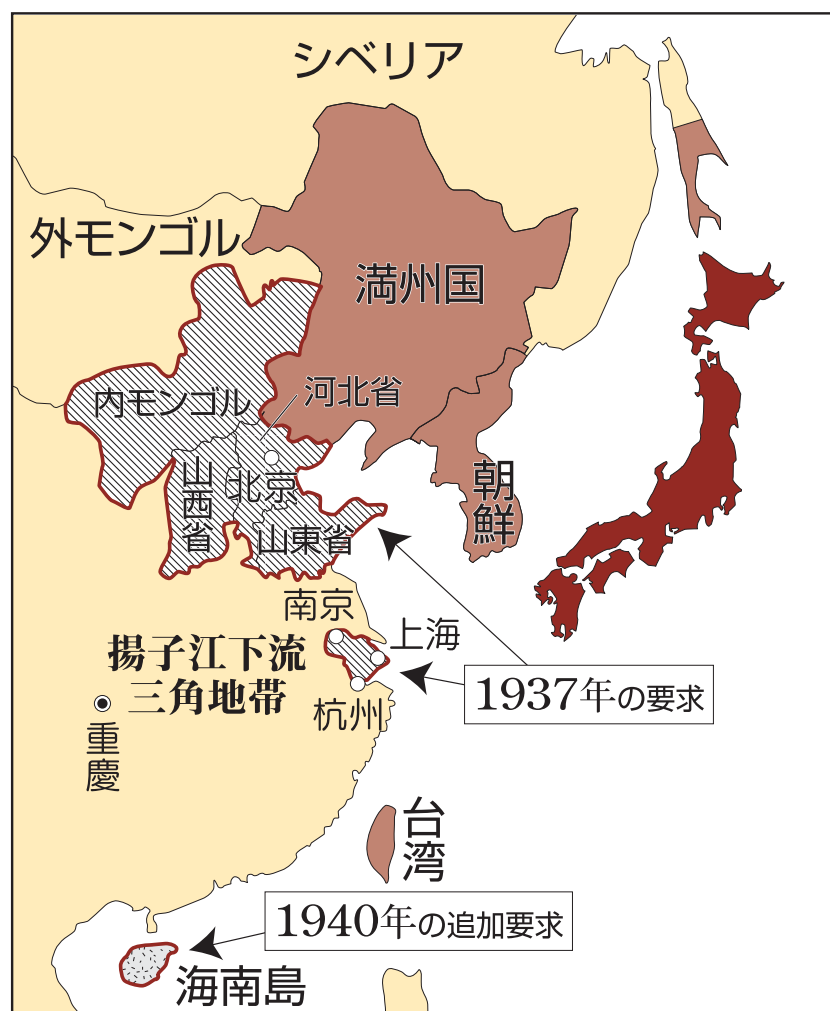
領土と支配圏の拡張(1905～1933年)



満州事変(1931年)

関東軍が南満州鉄道の線路を爆破(柳条湖事件)。それを中国軍の攻撃だと偽り、軍隊を出撃させて「満州」全域を占領しました。

日中戦争:日本が要求した「講和条件」



1 『『支那事変』処理根本方針』(1938年1月)

御前会議で日中戦争の「講和条件」として決定したもの。「満州国」の承認とともに、中国への領土要求として①華北・内モンゴルと②上海を中心とする揚子江下流三角地帯とをあげ、「非武装地帯」を設け、中国軍の撤退と日本軍の駐屯を求めました。

2 「皇国の大東亜新秩序建設の為の生存圏」(1940年9月)

ドイツ、イタリアとの軍事同盟の交渉にあたって、日本が支配権をもつべき勢力範囲を画定した大本営政府連絡会議の決定文書。「生存圏」という名で、東南アジアから太平洋の島々、オーストラリア、ニュージーランド、さらにインドまで含む広大な地域を日本の支配圏に組み入れようとしていました。

3 「大東亜政略指導大綱」(1943年5月)

東南アジアの地域ごとにどういう政治体制にするかを決定した御前会議の文書。「マライ」(現在のマレーシア)「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベス」(以上、現在のインドネシア)は「帝国領土と決定」し「重要資源の供給地」とすることが明記され、「アジア解放」とは無縁な侵略主義を証明しています。

1940年に決定した日本の「生存圏」

